

平成 26 年度版 CROWN English Expression II

発行者番号	教科書の記号・番号
15 三省堂	英 II 302

1. 内容

- ・ モデル文や例文、練習問題には文法学習のための人工的な英文ではなく、実際に日常生活で用いられる現実的な英文が用いられており、書くためのモデルとして適切である。
- ・ 題材として、科学技術、趣味・娯楽、環境問題、経済・ビジネス、文学・読書、生態系、日本の地方、家庭生活、社会問題、健康・医療、歴史、漫画、観光・地理、食文化、スポーツ、ペット、留学など、生徒の興味や関心を喚起する多様な内容を扱っている。
- ・ Part 1 の「基礎編 (センテンス・ライティング)」、Part 2 の「応用編 (パラグラフ・ライティング)」、Part 3 の「展開編 (エッセイ・ライティング)」の 3 部構成は、ライティング指導の実際に即した使いやすい構成内容である。
- ・ Part 1 は『英語表現 I』の「基礎文法編」を受けた「応用文法編」の設定で、ここで基本的な文を誤りなく書くことを学び、続いて Part 2 で与えられたテーマについてまとまりのある文章が書けるよう、基礎から応用へと段階的に進んで行く工夫がなされている。
- ・ Part 1 では、英文を書くために必要な文型・文法が『英語表現 I』を引き継ぐ形で体系的に取り上げられており、英文を書く能力の基礎・基本の徹底に配慮がなされている。
- ・ Part 2 では、Part 1 までで扱った文型・文法とは異なった切り口で基礎的な英語表現を学ぶ。同じ項目を別の観点から見ることによって英語表現知識の定着が図られる。
- ・ Part 3 では、複数の段落を持つ英文が扱われ、Part 1、Part 2 の総まとめとして、文章の構成に関して確認できるように工夫されている。
- ・ 4 課の Speaking では、スピーチやプレゼンテーションの型を学びながら、自力でスピーチやプレゼンテーションの原稿をまとめ、最終的にスピーチ・プレゼンテーション活動を行う筋道が示されている。
- ・ ディスカッション、ディベートにおいても、ディスカッション、ディベートの実際に触れることを通してそれらの活動を行う筋道が示されている。
- ・ 全課を通して「書く」活動と「話す」活動が適宜織り交ぜられており、「英語表現」という名称の教科に相応しい言語活動に重点が置かれている。

2. 構成・分量

- ・ Part 1 は見開き 2 ページ、Part 2、Part 3 は見開き 4 ページで構成されており、授業展

開がわかりやすい。各課の分量も無理なく学習できるように配慮がなされている。

- **Part 1** 各課の構成が、導入文の提示、〈G-file〉(文法・文型の解説)、〈Expressions〉(文法・文型の確認)、〈Ex-file〉(練習問題)、〈TRY〉(その課で学習した表現を用いる自己表現)となっており、学習活動のプロセスに配慮がなされている。
- **Part 2**、**Part 3** 各課の構成が、導入文の提示、〈F-file〉(その課で扱う英語表現の確認)、〈Ex-file〉(練習問題)、〈TRY〉(パラグラフ・ライティング)となっており、生徒が無理なくまとまりのある文章を書くことができるように配慮されている。
- **Speaking** の構成が、スピーチの場合は〈Speech〉(スピーチの見本)、〈Sounds〉(スピーチの際に注意すべき発音のポイント)、〈Tips for Speech〉(スピーチのコツ)、〈Expressions for Speech〉(スピーチでよく使われる表現)、〈After Speech〉(スピーチ後の質疑応答でよく使われる表現)、〈Your Turn〉(生徒の自己表現問題)、またプレゼンテーションの場合は〈Presentation〉(プレゼンテーションの見本)、〈Expressions for Presentation〉(プレゼンテーションでよく使われる表現)、〈After Presentation〉(プレゼンテーション後の質疑応答でよく使われる表現)、〈Your Turn〉(生徒の自己表現問題)となっており、まとまりのあるスピーチ・プレゼンテーション原稿を書き、また実際にスピーチ・プレゼンテーション活動を行うことができるように配慮されている。
- **Part 1** では 5 課毎に「Grammar Profile : 問題編」(まとめの文法・作文問題)、**Part 2** では 2 課毎に「パラグラフ・ライティングに向けて」(効果的なパラグラフのまとめ方の解説)が設けられている。

3. 表現、使用上の便宜

- **Writing** の設問が、各課、空所補充、整序、部分英訳という出題形式で統一されており、また **Part 1** から **Part 2**、**Part 3** へと進むにしたがって易から難へと進行していくため、学習がしやすい。
- **Part 3** では、段落の構成などが視覚的にとらえられるように工夫・配慮がなされていて、理解しやすい。
- 各課の最後の〈TRY〉は自己表現問題であるが、自由英作文の課題にもなる。

4. その他

- 4色刷りで明るく、見やすく、ゆとりのある誌面構成である。
- 各課に、内容に即した写真が配置されていて、生徒が書くためのイメージを喚起するのに役立つ。
- 付録が充実している。付録1の〈Expressions〉は各例文に簡潔な文法説明が添えられており、各課の練習問題を解く際や自己表現問題の英文を書く際に適宜参照できる。また〈Vocabulary〉は語彙力の増強に効果的である。付録2、3の〈表現集〉も各課でパラグラフをまとめる際に適宜参照できる使いでのある内容である。